

## 第9回野鳥園臨港緑地干潟湿地環境保全事業委託アドバイザーボード 議事概要

### 1.日 時

平成31年3月19日（火曜日）

午後2時～午後4時

### 2.場 所

大阪市建設局 第6共通会議室

大阪市住之江区南港北2-1-10

### 3.参加者

#### 【委員】

鴻原委員、長瀬委員、山西委員、矢持委員

#### 【協働事業者】

NPO 法人南港ウェットランドグループ理事長 高田

大阪市建設局臨港方面管理事務所管理課長 鈴木

大阪市港湾局計画整備部施設管理課長 綱

住之江区役所協働まちづくり課長代理 浜上

#### 【事務局】

大阪市建設局臨港方面管理事務所管理課

大阪市港湾局計画整備部施設管理課

### 4.議事

平成30年度事業報告及び今期事業総括

平成30年度事業にかかる目標管理報告及び今期事業総括

### 5.議事要旨

「4.議事」について報告したのち委員から意見を受けた。

#### 委員からの主な意見

##### ■湿地の保全・再生について

- ・野鳥の飛来種数の目標を設定し、底生生物の動態をも考慮した上で、落葉の投入やカキ礁の移動などにより効果的な順応的管理が行えており評価できる。
- ・干潟の順応的管理について、カキ礁の手入れやアオサの除去等効果的な管理が出来ており、評価できる。
- ・干潟内において土砂が埋まった箇所への復旧について、台風による攪乱が生物多様性に良い

影響を与えている可能性があるとも捉え、生物の生息状況の変化などを観察しつつ、必要に応じ復旧作業を実施していくという対応について評価できる。

#### ■魅力ある環境学習会の実施とトータルコーディネイターの育成について

- ・予算が限られる中であっても多様な環境学習会を実施しており評価できる。特に、アカテガニ観察会をはじめそれぞれの行事においてはきめ細かな工夫と準備によって取り組み、効果を上げていることは評価できる。
- ・観察会等の定員充足率の向上について、募集定員をそのまま目標とするのはふさわしくないのではないか。募集定員はキャパシティの限界を想定して設定されるものであるから、各観察会における最適な参加人数を検討して目標としていくことが望ましい。
- ・環境学習としての多様な体験プログラムを行うことが望ましい。例えば、天王寺動物園で、動物の飼育を体験することで身近に動物と接し動物と自然に対する認識を深めてもらうことを目的とし実施しているサマースクール（平成 30 年度で 44 回目）を参考として、野鳥園においても工夫して実施してはどうか。体験した子供が大人となり次世代へと引き継がれてゆくといった良きサイクルで環境学習の輪が広まると考えられる。

#### ■広報活動の充実について

- ・アカテガニ観察会などの観察会においては、効果的な広報が行うことができ評価できるが、市民からの認知度は未だ低いため、更なる広報の充実を図っていくことが望ましい。
- ・新たに設置した人感式カウンタでは、同じ日に複数回出入りした人は重複してカウントされていることから正確ではなく、実際に近い数字（推計）を出したほうがよい。また、今後は来園者数も目標設定してはどうか。

#### ■その他、今後の野鳥園の運営に関わって

- ・協働事業として、NPO と大阪市の連携についての総括を行うよう検討してほしい。また、NPO における事業運営の持続性・将来性が担保されていなければならない。
- ・指定管理時代と比べると、常駐者が不在となり来園者数も減少し、以前の賑わいが無くなり寂しい思いがある。野鳥や湿地の環境保全と、市民がさらに利活用できる貴重な環境学習の場の実現を目指し、万博開催や IR 誘致で注目を浴びるこの機会に認知度を上げていくための工夫を行うことを検討してほしい。
- ・今後、野鳥園を市民サービスの場と野鳥保護・環境学習の場とを両立して活用していく場合、現状の管理体制では限界があるため、集客施設に戻すことも含め市側の支援と予算確保が必要と考える。